

西多摩医師会報

1988年2月1日

182号

発行所・社団法人 西多摩医師会 東京都青梅市西分3-103
編集委員・石井 好明 井村 進一 TEL.(0428)23-2171(代)
栗原 琢磨 小林 杏一
道又 正達 村山 正昭 渡辺 良友

二つの要綱をきまる

西多摩地域医療機関連絡会設置要綱

1. 設 置

西多摩地域内の公的病院と私的病院および私的診療所との機能分化と連携について具体的な協議を行い、地域医療の円滑な推進を図るため、西多摩地域医療機関連絡会（以下「連絡会」という。）をおく。

2. 所掌事項

連絡会は、地域医療の充実、向上をめざし、情報の交換、課題の提供ならびに病診連携の具体策について調査検討を行う。

3. 組 織

連絡会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 各公的病院の院長または副院長、その他の医師を代表する者および事務長
- (2) 社団法人西多摩医師会役員および委員
若干人

4. 役 員

連絡会に会長および会長職務代理者をおく。

(1) 会長は、前項の委員の互選により選出、連絡会を代表し、会務を総理する。

(2) 会長職務代理者は、委員の中から会長があらかじめ指名し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(3) 役員任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。

5. 会 議

連絡会の会議は、必要に応じ会長が招集し、会長が座長となる。

6. 庶 務

連絡会の庶務は、会長の所在する団体の事務局において処理する。

7. その他の事項

この要綱に定めない事項は、その都度連絡会において定める。

8. 実施期日

この要綱は、昭和62年11月17日から実施する。

西多摩地域保健医療推進協議会要綱

1. 設 置

西多摩地域広域行政圏協議会ならびに社団法人西多摩医師会が密接な連携のもとに、

西多摩地域住民に対する適切な保健事業、良質な医療を提供し、健康の維持増進を図るため、西多摩地域保健医療推進協議会

(2)

(以下「協議会」という。)をおく。

2. 所掌事項

協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 地域保健事業に関すること。
- (2) 地域医療計画に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、協議会の設置目的を達成するために必要な事項に関すること。

3. 組織

協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 西多摩地域広域行政圏協議会を代表する委員 若干人
- (2) 社団法人西多摩医師会を代表する委員 若干人

4. 役員

協議会に会長および副会長をおく。

- (1) 会長は、前項第1号の委員の互選により選出し、協議会を代表し、会務を総理する。

- (2) 副会長は、前項第2号の委員の互選により選出し、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

- (3) 役員任期は、2年とする。ただし、再選を妨げない。

5. 会議

- (1) 協議会の会議は、必要に応じ会長が招集し、会長が議長となる。

- (2) 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴くことができる。

6. 庶務

協議会の庶務は、西多摩地域広域行政圏協議会会長である市町村の保健担当課において処理する。

7. その他の事項

この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、その都度協議会において定める。

8. 実施期日

この要綱は、昭和62年11月17日から実施する。

理事会報告

移動理事会開催される

今回の理事会はかねて打ち合わせの通り恒例により場所を変更し下記により移動理事会といたします。諸事ご多用のこととは存じますが是非ご出席ねがいます。

記

日時：62年12月22日(火) Pm: 7時30分

場所：福生「くはた」

(議題)

1 報告事項

- (1) 都医地区医師会会長協議会報告 (西村会長)
- (2) 都医師会地域医療活動推進施設連絡会報告 (林 理事)
- (3) 福祉部報告 (栗原理事)
- (4) 東部ブロック報告 (塩沢理事)
- (5) その他

2 協議事項

「医療協」議題について(大塚副会長)

1. 自治体の子宮体がん検診について
2. 在宅難病患者訪問診療事業について

定時総会のおしらせ

昭和62年度 定時総会は3月26日

(土)午後2時より 医師会講堂に

おいて開催されます。

提 言

第3回西多摩学校保健連絡協議会について

学校医部 東 吉 男

頭書の協議会は東部ブロック（福生市、羽村町、瑞穂町）の担当幹事の御努力により、昨年10月別紙の通り行われた。第3回とはいえ、実質的には西部ブロックに次いで第2回目の協議会であり、協議会の内容、運営をどうするかについては相当の御苦労があったと思われるが、先ずは順調に進行した様である。

協議内容については前回各地区の自由な発言とした為、まとまりのつかないきらいがあった為、今回は協議主題を脊柱側弯症の一本に絞ったのであるが、何せよ一つの主題について九つの市町村の現状とか意見を聞くのであるから、1時間半の制限時間は些か短か過ぎる嫌いがあり、2時間位欲しい所であるが、諸々の事情により止むを得ない所である。従って協議内容を実りあるものにする為にはそれだけの準備が必要と思われる。即ちこの様な西多摩全体の協議会を開く前に、各市町村で、学校側、行政側、医師会側の三者が夫々問題を持寄り話し合いを行い、未解決の問題とか新しい問題とかについて十分討議し、それらの問題点をまとめて西多摩全体の協議会の場に提出出来る様にする事である。何

せよ限られた時間内の発言討議であるから要領よくやる以外にない。従って今回の如く主題の側弯症の問題討議だけで時間一杯というのでは各市町村の不満は解消出来ないと思われるので、主題討議と一般討議を半々か2対1位の時間配分に出来るだけ制限時間を有効に活用したいものである。

今回の側弯症については各地区より、その現状と不明不可解の点について別紙の如く十分の討議が行われたのであるが、一番の問題点は第一次検診を如何ようにするかということであり、第2番目には、第2次、第3次検診を公費にしてもらえないかということであり、第3番目には事否管理の問題の問題であったと思う。何れにしても各地区夫々、研究協議の必要性を感じた様であり、この思いは各委員共通の感想ではなかったらうか。

この様にして毎年1回でも協議会を開催することにより他地区の事情を知り、互に意見を交換し合い協議を重ねることにより、各地区の学校保健関係者がよりよい学校保健を目指して努力してゆくならば、西多摩学校保健も年を追って向上して行くものと期待される。

学 術

“学校検尿について”

わが国における慢性に経過する小児腎炎の有病率は、病院を対象として調査したところ、人口10万人に対して小学生約40例、中学生約50例と報告されている。また、尿スクリーニングにより無症状の慢性腎炎は、小学生ではその2～3倍、中学生ではその2～4倍存在すると推定されている。

1973年から学校保健法が改正されて、すべての小・中・高校における児童、生徒の健康診断のために尿検査を行うように指示がなされた。この学校検尿は、慢性に経過する小児

腎疾患を草期に発見し、はやくから適切な管理を行い、腎不全となるのを未然に防ごうとするものである。ところで、このような集団検尿において、蛋白尿や血尿を発見した場合、どの様に診断し、生活管理を行うか、疫学を中心に、若干の腎生検所見を加えて、ここに報告する。

文 芸

処世えの道を求めて 小泉新策

顧りみて 我の歩みの 道々に
懈怠はなきか はた過誤なかりしか

今年は 再発心し 読書して
道極めんと 心なすなり

年の初め 小机教授の 衛生書を
次に 茂木の 総論を読む

閑暇あらば 越山（渋谷）の書態体得し
赤壁の賦など 書きて楽しまんか

見渡せば 複雑多岐の 論法で
売手優位に 押しまくる「米」の戦法

チエルノブイの 被爆商品 全世界を
かけめぐるとは 既に変わりて

古今を通じ かつてなき 様の
心ゆるせぬ 世代に入ると

かくあれば 医食同源の 基本理念
究め行くべき 時とはなれりか

わ だ ち (轍)

鈴 木 修

月1ゴルフではないが、毎月1回は“ふるさと”へ帰る様にしている。懐古の気持と一つのレジャーとしてドライブを楽しむことも加えて、老化予防にも役立っていると思う。1月、2月は降雪の心配もあり、この季節は新幹線を利用している。今回の12月は12、13日の土、日に出かけたのだが、あいにくその前の週の土、日に雪に見舞われてしまったので予定した日も朝から雨模様で雪になることも心配された。それでスパイクチェーン、ゴム長、軍手、雨合羽等々完全装備で出発した。というも実はその2～3年前、同じ12月の半ば車で出かけた時のこと。行きは好天気恵まれたが、帰りに恵那山トンネルを出た頃から雪が降りはじめた。途中積雪も多くなりチェーンを着けて走る。前に通った車のわだちをたどり乍ら40～50キロの速度で走っていると途中の雪の深みに前輪をとられて横す

べりをした。あわて、ブレーキを踏んだらそのまま坂道をすべり降り途中180度回転して後部を道路右側のガードレールにぶつつけてやっとUターンした形で停止した。ガードレールの外側は深い谷になっている。後続の車が少く車間距離があったので幸にして他の車には影響がなかった。然し驚いた。同乗者の悲鳴もあったが、何にしても寿命のちむむ思いをした。後続車が近くにいれば大惨事にもなりかねないし、今頃こんなことを書いていることも出来なかったのではないかと思われる。この様な場合はブレーキを使わずセカンドかローにシフトダウンすればよいとのことであるが、とっさの場合それを知っていても仲々思うようにゆかないものだ。雪道或いは凍結路の場合、低速運転のことは勿論であるがギアはロー或いはセカンドに入れて運転するものであることが漸くわかった様な気がし

た。その後は慎重に運転し諏訪パーキングで休息。この時になって車の破損状態が心配になり調べたところ、軽い打撲傷程度ですんでいた。諏訪を出て積雪は益々多くなり勝沼で通行止めとなり、一般道路に迂廻、難儀をして夜中に帰りついた。以上のような体験から今度は充分気配りをしたわけである。

12日出発に先立ち飯田インターに電話して天候の状態を問い合わせた所“雪もなく埃がまっています”との返事に大笑い、それならば大丈夫と気持ち軽く中央道に入る。途中小雨もあったが諏訪を過ぎてからは青空も見られる様になり、飯田辺りは確かに晴れて埃がまっていた。春日井の家についたのは夕方、心配することもなかった。

翌日は朝から曇天、時に小雨がぱらつく、又帰りのことが気になる。少し早めに帰る予定で昼すぎ勝沼インターに連絡“積雪の為チェーン装着で現在は通れますが今後は降雪の模様でどうなるか判りません”との返事、早く帰る予定も思うに任せず夕方になってしまった。然し天候の方は快復に向っている様で

雲もきれ青空も少し見えて来た、遅くなれば或いは晴天となるやも知れず幸運を願い乍ら覚悟をきめてゆっくり夕食をすませ、9時近く帰途についた。その頃は星も見られる様になった。然て恵那山トンネルを出ると又雪模様であるがまだ積雪まではない。前回の轍をふまない様慎重に運転する。程なく諏訪パーキングに着く。周囲は真白だが道路はぬれてはいるが凍結、積雪もない。雲もきれて来ている様子、暖かいコーヒーで気分転換、ガソリン満タンにして出発、途中道路脇に雪がつもられているが走行に支障はない。除雪車が通ったのであろう。唯泥水のはねが凄い、ウォッシャーとワイパーの活躍である。甲府附近で濃霧にみまわれたが笹子トンネルをぬけると星空が見えて来た。その後は快調にとばし、1時過ぎ心配した程のこともなく家にたどりついた。“節角新しく買って準備したチェーンも使えなくて残念なことをした”とつぶやき乍ら床についた。

西多摩医師会写真展



場所 福生市 田辺画廊
 時 2月16日(火)～21(日) PMO～6時
 (幹事 松原 0425-54-2427)



税 務

税 務 講 習 会

今年は暖冬であるとはいえ寒い日の続く1月20日午後西多摩医師会館講堂に於て医師会福祉部、青申会医師会支部共催のもとに税務講習会が行われた。例年確定申告を前にして正しい決算と申告が行われるようにとの配慮で行われるもので、出席者は12名であった。講師として青梅税務署より熊谷良平副署長、所得税第2部門佐々木義勝統括調査官をお招きした。熊谷副署長からは、税務行政に対する日頃の協力に対し感謝の言葉が述べられたあと正しい記帳適正な申告をしていただきたいとの要望があり、挨拶を終えられた。次で佐々木統括調査官より本日のテーマである「改正税法と確定申告に際し留意すべき点について」の講演が行われた。紙上の関係上全部についての記載は出来ないが、以下その要点について記述する。

まず申告前に特に留意すべき事項についてのべる。申告前の決算で留意すべき事項

- ① 棚下しの作製—在庫品をおく人、おかない人もあるが、薬剤、器具等を多量に消費する事業所に於いては在庫品の多寡が収入に関係する。安いうちに多量に買い込む、1年分買い込んだ場合、月により在庫の額に変動がある。1年間の決算を組んだ場合在庫の額により毎年の利益が相当左右されるはづである。当然所得金額に影響するので棚下しの作製にも充分注意を要する。

在庫の評価は最終支入れ原価による。時期は年初仕事を初める前がよい。

- ② 収入金額の整理—医薬品等の自家消費の計上を間違いなくやる。赤電話、自動販売機、レポート、容器代等も雑収入として計上。
- ③ 必要経費と生活費との厳正な区分—接待費、水道光熱費の家計費との按分。同窓会等の費用も医業遂行上で必要なものかどうか、その辺の按分。租税公課の中では住民税、所得税は必要経費ではない。固定資産税の中でも住宅部分は家計費となる。消耗品の中でも1ヶ又は1組の価格が10万円を

越えるものは、原価消却の対象になるものもあるので注意。旅費、交通費、接待費、慰安旅行の際の家族の参加費の按分

- ④ 修繕費の場合—診療所の修理の場合等で附加価値が付き原価消却の対象となることがある。
- ⑤ 給与を支払った場合誰に支払いをしたかははっきりさせておく。
- ⑥ 専従者給与の場合—3～4年前より限度額の見直しが行われている。歯止めなく高額な金額の支払いや、仕事に従事していないものへの専従者給与の支払いは許されない。

以下留意すべき点を箇条書きにする。

- 届出を確実にしておくこと。
給与額をアップするときは変更届出を。
- 毎月の支払いを必ず記帳する。
- 源泉徴収の手続をしておくこと。
- 給与の額は、その働きに対して適正な額であること。

以上で確定申告の際の留意事項を終り、昭和62年10月に行われた税制改革による改正の概要について説明が行われた。この改正には62年分から適用されるもの、63年1月から又63年4月から適用されるものの3段階がある。

以下我々に関係のあるものについて説明が行われたので箇条書きに記載する。

1. 昭和62年分から適用分

- 控除対象配偶者、扶養親族の規定の整備、従来は配偶者控除と事業専従者控除は、どちらでも任意に、撰択することが出来たが、事業専従者に該当すると配偶者控除は、撰らべなくなった。
- 給与所得控除額の規定の整備
最低控除額は55万円→57万円になった。これは3年前より実施されているが、臨時のものより恒久的なものになった。
- 配偶者である事業専従者の控除額の引き上げ。

白色申告については、配偶者のみ45万円から60万円に引き上げられた。

- 4) 損害保険料控除の対象となる損害保険契約等の範囲の拡大
従来は損害保険料控除の対象になるものは火災保険料のみであったが、今回、交通障害保険、golfer保険等が加わった。
- 5) 寄付金控除の対象となる特定寄付金の範囲の拡大
- 6) 配偶者特別控除制度の創設
従来配偶者控除は33万円であったが、それに16万5千円を限度として上積みされる特別控除制度が創設された。
- 7) 税率の見直し
改正後は適用課税所得5千万円超の金額に対して最高税率60%と若干緩和された。
- 8) 加算税の割合の引き上げ
加算税の税率が無申告加算税、過少申告加算税、重加算税とすべてに5%引き上げられた。
2. 昭和63年分から適用分
- 9) 公的年金等の所得区分の変更
給与所得とされていた年金及び恩給の所得区分が雑所得とされた。この改正に伴い所得の計算について公的年金等控除が創設された。
- 10) 医療費控除の縮減合理化
医療費控除額の金額の計算上、足切限度額が、5万円から10万円に引き上げられた。
- 11) 老年者控除額の引き上げ
老年者控除額が25万円から50万円に引き上げられた。
- 12) みなし法人課税制度に係る過大報酬額の規定の拡大
事業主報酬は過去3年間の事業所得及び不動産所得合計額の各年分の80%以内にする。尚それを超える部分については、過大報酬として30~42%の所得税が加重される。
3. 昭和63年4月1日から適用分
医師の税制には関係ないので省略
以上で佐々木統括調査官の話は終わったが、今回の税制改正は複雑なところがあるので、もしおわかりにならぬところがあったら、税務署の方にお出でいただければ御指導申し上げますのでお気軽にお出で下さいと、何回も申しておられたことをお伝えして税務講習会について終わります。

(文責 大嶽 栄二)

訃 報

瑞穂町箱根ヶ崎 273
荻野 医院



荻野 義一 先生

明治 38 年 12 月 15 日生 享年 82 才

昭和 63 年 1 月 9 日 午前 11 時 58 分

脳出血のため逝去されました。

告別式は 1 月 12 日 1 時より瑞穂町 円福寺に於て執り行なわれました。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

2月, 3月の日程(予定)

— 2月 —

- 2日(火) 「西多摩地域医療推進協議会」
Pm 1:00 (於て青梅市福祉センター)
- 8日(月) 保険整備会
理事会
(昭和63年度各部予算(案)、同事業計画(案)及び昭和62年度事業報告を提出)
- 9日(火) 学術勉強会「最近のつつが虫病について」(五日市保健所所長
松原義雄先生)
- 10日(水) 法律相談
- 16日(火) 総務会
- 17日(水) 学術研究会「内科から見た慢性関節リュウマチについて」青梅市立総合病院 桜井徹志先生
- 18日(木) 経理部会(昭和63年度予算編成)
- 19日(金) 都医地区医師会長協議会
(於て 都医師会)
三多摩地区医師会庶務担当理事連絡会 (於て 北多摩医師会)
- 23日(火) 理事会(昭和63年度各部予算(案)、同事業計画(案)及び昭和62年度事業報告の承認を得る)
- 26日(金) 学術研究会「学校検尿について」
阿伎留病院小児科科長
正木忠明先生

— 3月 —

- 5日(土) 選挙告示
- 8日(火) 保険整備会
理事会及び総務会
- 9日(水) 法律相談
学術勉強会「浮腫」(横田先生)
- 10日(木) 互選理事、病院理事届出締切り
- 16日(水) 立候補届出締切り PM 5時
(立会人 2名)
臨時理事会(選挙管理事務)
- 18日(金) 学術研究会「心疾患の外来治療(狭心症、心不全、不整脈を中心に)」
青梅市立総合病院内科部長
坂本保巳先生
都医地区医師会長協議会
(於て 都医師会)
三多摩ブロック地区医師会長協議会
(場所 未定)
総会資料発送
- 22日(火) 理事会
- 28日(月)から31日(木)までの間に理事会を開催する。

あ と が き

暖冬です。そのうちに大寒波がくるのか、このまま櫻が咲くのか、全くおかしな昨今です。昨今の異常乾燥は日本人向きではありません。

「新」執行部と言っていたのが、はや二年経過しました。三月五日には選挙告示もあり

あわただしい年度末を迎えます。より多くの会員各位の御参加が期待されます。

井村 進一



ハイテクノロジー検査領域へ!

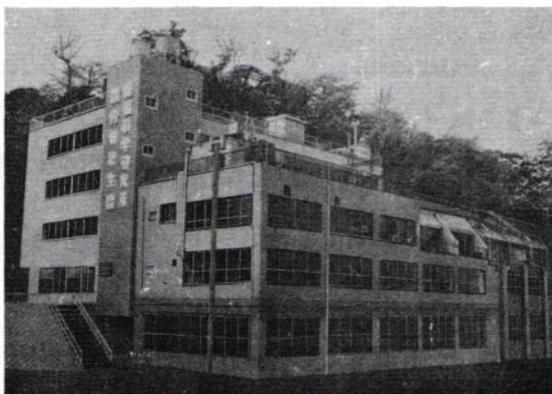
本社総合ラボは、日々進展変化する臨床検査システムに対応すべく、関東医学研究所の総力を投入し、最先端検査機器を駆使した正確な情報の抽出を目指しています。検体のお預りからデータのご報告まで、確実に迅速にお応えします。

事業内容 一般検査、血液学的検査、血清学的検査、臨床化学検査、微生物学的検査、ラジオ・アイソトープ検査、病理学的検査、集団検診などの臨床検査



臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106
電話 045 (333) 1661 (大代表)
八王子市子安町3-17
電話 0426 (26) 2203・2204

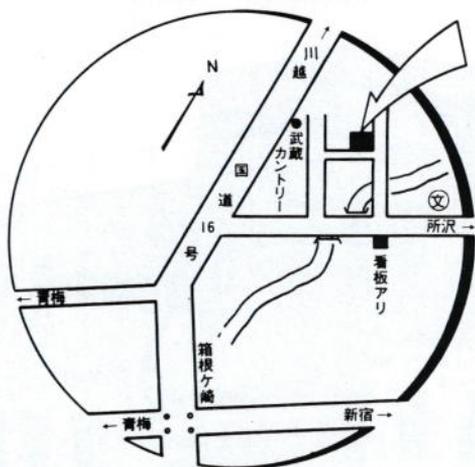


- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
 - 内分泌学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

！都11県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。

期待と信頼にこたえて15年!!

検査のことなら武蔵臨床へ 電話一本緊急検査に応じます
学校、会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

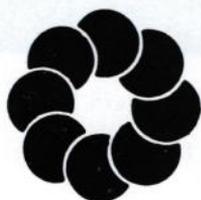
所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢 3 3 9 ~ 1

TEL 0429 (64) 2621(代)

くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行



埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)
東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)
青梅支店 (TEL 0428-83-2515)
奥多摩特別出張所

福生支店 (TEL 0425-51-1021)
村山支店 (TEL 0425-61-1211)
五日市支店 (TEL 0425-95-1311)
河辺支店 (TEL 0428-24-2401)
秋川支店 (TEL 0425-58-2611)

第3回西多摩学校保健連絡協議会について

日 時 昭和62年10月22日(木)午後1時30分～3時
会 場 福生市商工会館三階会議室
出席者 医師会側(5名) 行政側(10名) 学校側(17名)

次 第

1. 挨拶
2. 経過報告
3. 研究協議

(2) 経過報告

開催までの経過

第1回幹事会 昭和62年 7月 1日

1. 協議会までの運営について
2. 開催日時と場所について
3. 研究テーマについて

昨年の協議会において、今後の課題に出されていた、脊柱側弯症、性教育、肥満、ぜんそく、等の問題からしほる。今年度は「脊柱側弯症」に限定する。

第2回幹事会 昭和62年 7月 9日

1. 研究内容を具体的にどうするか。
2. 実態調査をどのようにするか。

第3回幹事会 昭和62年 9月30日

1. 議題の協議会提出資料について。
2. 協議会の運営について。
3. 日程について。
4. 来年度の研究主題について。
5. 協議会次第について。

脊柱側弯症の実態調査については9月21日までに各市町村教育委員会で集約する。

(3) 研究協議

脊柱側弯症の実態調査について各市町村ごとに説明。

青梅市

小学校 18校、62年度異常者4名、61年度は71名になっている。昨年度の数は理解に苦しむ。校医視診では、今年度は異常なし、10.11月に脊柱測定器で担任と養護教諭で検査、素人がすることで診断ではなく検査をすることによって姿勢を大切にするという保健学習がねらいである。その中で選出されて、専門医にまわされたのが4名であると思う。要望として、現場で担任、養護教諭が姿勢検査をやりながらの学習も大切だが、定期の健康診断の中で業者なり専門的な機関で科学的な検査をしていただけるようなシステムになれば有難い。

中学校 小学校と同じような方法で実施しているが、全然実施していない学校が2校ある。養護教諭、担任では視診の判断が難しい。専門の医師、業者の方の巡回検診をお願いしたい。

福生市

(1) 実態調査について

62年度小学校2名 5年女子、2年生の時に内科検診で発見、38度で専門医にかかり経過観察中でしたが進行し50度にもなり埼玉医大病院で手術。6年女子、3年生の時に内科検診で発見、経過観察中5年生になって悪化し現在装具使用、国立村山病院で治療観察中。中学校25名 視診の結果が一部入っているのが数少し多くなっている。ほとんどの生徒が3ヶ月、6ヶ月後に再検査の経過観察を要する人でした。中に装具を1年位使用し最近治癒した生徒がいた。

(2) 検査方法

校医視診後疑わしい者を専門医へ。内科検診時に全校児童生徒を校医視診。養護教諭、担任があらかじめ視診でチェックし疑いのある者だけ校医視診。

(3) 視診による検査方法についていくつか疑問点が出されている。

時間と見落としの事について、校医が全校、一人ひとりみていくと時間がかかる。時間短縮のため、養護教諭があらかじめチェックするのは見落としが心配である。

視診で疑わしい者が沢山出されますが専門医の結果異常なしが多い、沢山出さ

れる学校と少ない学校がある。当然ですが、視診の方法を統一して、養護教諭、職員も含めて更に研修をしなければと思った。

専門医へ受診を勧めるが、受診しない子がいて事後指導にこまる。今後も保護者への啓蒙をして生きたい。できれば、疑いのある児童生徒に公費による二次検診を実施していただければと思っています。

羽村町

検診方法は千葉大方式で3年位前から予防医学協会で検査、その当時視診だけで検査をくりかえしていた。養護教諭自身、検査方法等の研修をうけていなかった為、不安定な中でやってきたが、積重ねの中で検診時の検査も校医、養護教諭共に定着し、選別される人数もどの学校とも平均化されてきている。検診者の慣れというか大勢の子供達を何回も診ることによって学べて行けるところだと実感する。

表について 61年度の15度以上の人数が多いが、15度以下、次年度再検査者が含まれており実数は小学校2名、中学校1名である。

事例について 60年度に異常なしだったが、どうもおかしいので61年度再検査19.7度に進行していた。6ヵ月後再検査の指示でしたが、日常観察の中で心配だったので3ヵ月後にもう一度受診させた。経過がおもわしくなく、コルセット使用治療、その後経過が良くなってきた。脊柱側弯症のフィルム写真が悪い時の状態と良くなってきた時の写真をみて説明があった。

秋川市

検診方法 千葉大方式 三次まで公費でやっている。校医の視診については内科検診時にやっているなので時間的制約があり、全員じっくり診ていただくという訳にはいかない、各学校とも工夫してやっている。あらかじめ体測の時など選別し内科検診時に診ていただく、担任がみておかしい子を診てもらう。見落としの問題で常に不安を感じている。

実態について 15度以上で医療を必要とする者があがっている。

小学校 5年女子1名 6年女子2名 計3名

中学校 1年女子3名 2年男子1名 3年男子1名

計男子2名 女子5名

昨年度の低線量の受診者と次年度の受診者と要医療になった人。

低線量受診者小中学校合せて212名受診。

次年度受診者49名 男20名 女29名

要医療 10度以上3名 男2名 女1名

問題点

一次の視診で養護教諭、担任がチェックし校医の先生に詳しく診てもらうが、適確に出来ているか不安である。自身がない、見落とし、学校差があるという点で悩んでいる。二次、三次は業者でやっているが、視診の段階でより精度を高める方法を考えなければと思っている。視診についての実際的な研修をし、いろいろな測定器具等についても実習したい。

瑞穂町

検診方法は校医による視診。

視診の仕方が各校によってちがう。

全屈姿勢をとらせている所 4校

立位姿勢をとらせている所 2校

データについて

小学校 昨年度より増えているのは内科検診時に立位姿勢をとらせ、更に学校単独の検査、姿勢測定器を使って選別された結果の異常者の数が男子14人女子13人となった。脊柱側弯症とは言いがたい数である。

中学校 内科検診時に発見された異常者の数をそのまま調査に出したところもあるので、脊柱側弯症の数とは言いがたい。

内科検診時に7名異常者が出たが、そのうち1名コルセット使用し、医師の治療を受けている。

保護者が発見し、コルセット使用治療している女子生徒がいる。

学校でのX線検診で発見され、医師の診察を受けている。

脊柱側弯症と診断されている人は女子3名

治療勧告の用紙を検討中であり、治療結果が学校にもどってくる形式にしたい。

二次、三次検診の公費負担について今後検討して行く。

五日市町

小学校4校、中学校2校 計6校 検査方法は千葉大方式 学校で計測時に視診でチェックし、内科検診で校医視診。全員対象ではない中学生は1年生全員、2年、3年生は次年度再検査者。それに内科検査時にチェックされた人を

対象にやっている。小学校は1年生全員、2年生以上は中学校と同じやり方。表にある中学2年生女子1名について、昨年までは異常なしだったが、今年急に30度で発見、要医療通院中。

次年度再検査者 小学校 男子3名 女子2名
中学校 男子2名 女子0名

中学校の方では内科検診時に主にチェックしているが、全校一斉の検診なので、脊柱側弯症の担当が毎年変わることになり、担当者が不慣れのため、正確さを欠くのではないか。内科検診では中学の女子は上着を脱がないので難しい。検査方法で一番良い方法があれば知りたい。

日の出町

小学校2校、中学校2校、内科検診時に校医視診。小中学校1校は係の担任、養護教諭がチェックし、検診時に診る。

表について 男子0名 女子2名 計2名に訂正。

中学1年女子2名について 突発性側弯症と診断され6ヶ月定期検診している人と。もう一人は軽度の脊柱側弯症で、月一度通院している人である。

町内の養護部会より千葉大方式にしてほしいとの声がある。

奥多摩町

校医による視診 校医視診の結果、疑わしい者を専門医にまわす。その結果がわからない所があり、15度以上の人数はわからない。

脊柱側弯症は突発に出ることが多いので、年一回位の検診でいいのだろうか。発見確率の問題もあるが、どんな検査方法が良いのか。全員やる必要もどんなものか。個人として疑問を持っている。

檜原村

別紙参考 検査方法は千葉大方式

総括

東 先生

一次検診に問題があるようだ。学校医の手引きによると、視診と器具を持ちいるとの方法がある。最初は手探りでやってきた。一生懸命やってきたところ

からみつけれられるようになった 都の方針にのっとって実施している。全体の3%は疑わしいが、そのうちの3%がひっかかる。疑わしい者が発見できるのは我々のところである。疑わしかったら専門医による検査を受けるとすれば問題はない。発見率が少ないのに時間がかかる。自分の子供が偶然そうになったらショックだと思う。30度以内ならなんとか救え、幸せのためにどうしてもやらなければならない。少なくともやる義務があり、熱意を持ってやっていけばできる。データのとりかたには、問題があるので今後一生懸命やて行く。低学年は機能的な側彎症、高学年は要注意。だんだんと難しいものではなくなってきた。

質 問

奥多摩町

検査をあらためてやる必要がないのではなく、体重測定をしているので、その時、診ている。絶対やらなければいけないとか、方法論だと思う。予算があればやる方が良い。

秋川市校長

子供たちの勉強の姿勢、側彎症になりやすい子、突発的になる子、私たちにできるところの配慮を教えてほしい。

東 会長

子供は姿勢の悪いのが当然あり、自由にさせたい。突発性は原因不明である。思春期をすぎると止まる。ホルモンの関係か。早期発見である。30度以内に発見すると100%ふせげる。手術と進行を防ぐには、なんとしても早期発見である。低学年はあまり丁寧に診なくてもよいが、高学年女子、中学校はとくに注意。

西村 会長

校医の専門制とは、行政、校医、校長先生方としてはどのように考えているのか。検診のシステムを変えるのか。科学的な検診の要望が多いが、ご意見を伺いたい。

司 会

西村会長先生のご意見は、時間の関係で今後検討して行くという事で、次回へまわさせていただきます。

(4) 来年度研究主題について
次回幹事にまかせる。

(5) 来年度当番ブロック幹事代表挨拶
秋川市

(6) 閉 会

文責 福生市 羽村町 瑞穂町 幹事

西多摩学校保健連絡協議会資料

昭和61年度脊柱側弯症の実態調査

患児童生徒数(COBB 法15以上)

		小学校		中学校		検査方法
		受診者数	15以上(新)	受診者数	15以上(新)	
青梅市	男	5338	37(18) [△]	3239	2(1) [△]	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	5224	34(14)	2998	3(2)	
	計	10562	71(32)	6237	5(3)	
福生市	男	2308	0(0)	1207	1(1)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	2222	3(2)	1170	9(3)	
	計	4530	3(2)	2377	10(4)	
秋川市	男	2299	10(9)	1461	2(1)	千葉大方式
	女	2122	11(9)	1322	1(0)	
	計	4421	21(18)	2783	3(1)	
羽村町	男	2437	7(7)	1343	1(1)	千葉大方式
	女	2189	12(9)	1296	8(6)	
	計	4626	19(16)	2639	9(7)	
瑞穂町	男	1461	0(0)	889	0(0)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	1413	0(0)	866	0(0)	
	計	2874	0(0)	1755	0(0)	
五日市町	男	962	1(0)	573	0(0)	千葉大方式
	女	914	0(0)	550	2(1)	
	計	1876	1(0)	1123	2(1)	
日の出町	男	990	0(0)	508	0(0)	校医視診 疑わしい者を専門医へ 中学校1校千葉大方式
	女	849	1(0)	470	1(0)	
	計	1839	1(0)	978	1(0)	
奥多摩町	男	360	0(0)	216	0(0)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	337	0(0)	184	0(0)	
	計	697	0(0)	400	0(0)	
檜原村	男	124	0(0)	93	0(0)	千葉大方式
	女	130	1(1)	74	1(1)	
	計	254	1(1)	167	1(1)	

参考 受診者数は5月1日在籍数

学校医部会調べ

西多摩学校保健連絡協議会資料

昭和62年度脊柱側弯症の実態調査

患児童生徒数(COBB 法15以上)

		小 学 校		中 学 校		検 査 方 法
		受診者数	15以上(新)	受診者数	15以上(新)	
青梅市	男	510	2(0)	322	1(1)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	500	2(0)	307	8(4)	
	計	1010	4(0)	630	9(5)	
福生市	男	219	0(0)	126	9(9)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	216	2(0)	115	16(11)	
	計	436	2(0)	241	25(20)	
秋川市	男	215	0(0)	144	2(0)	千葉大方式
	女	202	3(1)	131	5(1)	
	計	417	3(1)	276	7(1)	
羽村町	男	230	0(0)	137	0(0)	千葉大方式
	女	202	0(0)	130	2(2)	
	計	433	0(0)	267	2(2)	
瑞穂町	男	143	14(14)	85	6(6)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	139	13(13)	83	3(3)	
	計	282	27(27)	168	9(9)	
五日市町	男	92	1(0)	56	0(0)	千葉大方式
	女	87	0(0)	53	1(1)	
	計	180	1(0)	110	1(1)	
日の出町	男	91	0(0)	53	10(7)	校医視診 疑わしい者を専門医へ 中学校1校千葉大方式
	女	79	1(0)	47	17(17)	
	計	171	1(0)	101	27(24)	
奥多摩町	男	33	0(0)	21	1(1)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	31	1(1)	20	3(3)	
	計	65	1(1)	41	4(4)	
檜原村	男	10	2(0)	9	0(0)	千葉大方式
	女	11	5(1)	6	0(0)	
	計	22	7(1)	15	0(0)	

参考 受診者数は5月1日在籍数

第3回西多摩学校保健連絡協議会について

日 時 昭和62年10月22日(木)午後1時30分～3時
会 場 福生市商工会館三階会議室
出席者 医師会側(5名) 行政側(10名) 学校側(17名)

次 第

1. 挨拶
2. 経過報告
3. 研究協議

(2) 経過報告

開催までの経過

第1回幹事会 昭和62年 7月 1日

1. 協議会までの運営について
2. 開催日時と場所について
3. 研究テーマについて

昨年の協議会において、今後の課題に出されていた、脊柱側弯症、性教育、肥満、ぜんそく、等の問題からしほる。今年度は「脊柱側弯症」に限定する。

第2回幹事会 昭和62年 7月 9日

1. 研究内容を具体的にどうするか。
2. 実態調査をどのようにするか。

第3回幹事会 昭和62年 9月30日

1. 議題の協議会提出資料について。
2. 協議会の運営について。
3. 日程について。
4. 来年度の研究主題について。
5. 協議会次第について。

脊柱側弯症の実態調査については9月21日までに各市町村教育委員会で集約する。

(3) 研究協議

脊柱側弯症の実態調査について各市町村ごとに説明。

青梅市

小学校 18校、62年度異常者4名、61年度は71名になっている。昨年度の数は理解に苦しむ。校医視診では、今年度は異常なし、10.11月に脊柱測定器で担任と養護教諭で検査、素人がすることで診断ではなく検査をすることによって姿勢を大切にするという保健学習がねらいである。その中で選出されて、専門医にまわされたのが4名であると思う。要望として、現場で担任、養護教諭が姿勢検査をやりながらの学習も大切だが、定期の健康診断の中で業者なり専門的な機関で科学的な検査をしていただけるようなシステムになれば有難い。

中学校 小学校と同じような方法で実施しているが、全然実施していない学校が2校ある。養護教諭、担任では視診の判断が難しい。専門の医師、業者の方の巡回検診をお願いしたい。

福生市

(1) 実態調査について

62年度小学校2名 5年女子、2年生の時に内科検診で発見、38度で専門医にかかり経過観察中でしたが進行し50度にもなり埼玉医大病院で手術。6年女子、3年生の時に内科検診で発見、経過観察中5年生になって悪化し現在装具使用、国立村山病院で治療観察中。中学校25名 視診の結果が一部入っているのが数少し多くなっている。ほとんどの生徒が3ヶ月、6ヶ月後に再検査の経過観察を要する人でした。中に装具を1年位使用し最近治癒した生徒がいた。

(2) 検査方法

校医視診後疑わしい者を専門医へ。内科検診時に全校児童生徒を校医視診。養護教諭、担任があらかじめ視診でチェックし疑いのある者だけ校医視診。

(3) 視診による検査方法についていくつか疑問点が出されている。

時間と見落としの事について、校医が全校、一人ひとりみていくと時間がかかる。時間短縮のため、養護教諭があらかじめチェックするのは見落としが心配である。

視診で疑わしい者が沢山出されますが専門医の結果異常なしが多い、沢山出さ

れる学校と少ない学校がある。当然ですが、視診の方法を統一して、養護教諭、職員も含めて更に研修をしなければと思った。

専門医へ受診を勧めるが、受診しない子がいて事後指導にこまる。今後も保護者への啓蒙をして生きたい。できれば、疑いのある児童生徒に公費による二次検診を実施していただければと思っています。

羽村町

検診方法は千葉大方式で3年位前から予防医学協会で検査、その当時視診だけで検査をくりかえしていた。養護教諭自身、検査方法等の研修をうけていなかった為、不安定な中でやってきたが、積重ねの中で検診時の検査も校医、養護教諭共に定着し、選別される人数もどの学校とも平均化されてきている。検診者の慣れというか大勢の子供達を何回も診ることによって学べて行けるところだと実感する。

表について 61年度の15度以上の人数が多いが、15度以下、次年度再検査者が含まれており実数は小学校2名、中学校1名である。

事例について 60年度に異常なしだったが、どうもおかしいので61年度再検査19.7度に進行していた。6ヵ月後再検査の指示でしたが、日常観察の中で心配だったので3ヵ月後にもう一度受診させた。経過がおもわしくなく、コルセット使用治療、その後経過が良くなってきた。脊柱側弯症のフィルム写真が悪い時の状態と良くなってきた時の写真をみて説明があった。

秋川市

検診方法 千葉大方式 三次まで公費でやっている。校医の視診については内科検診時にやっているなので時間的制約があり、全員じっくり診ていただくという訳にはいかない、各学校とも工夫してやっている。あらかじめ体測の時など選別し内科検診時に診ていただく、担任がみておかしい子を診てもらう。見落としの問題で常に不安を感じている。

実態について 15度以上で医療を必要とする者があがっている。

小学校 5年女子1名 6年女子2名 計3名

中学校 1年女子3名 2年男子1名 3年男子1名

計男子2名 女子5名

昨年度の低線量の受診者と次年度の受診者と要医療になった人。

低線量受診者小中学校合せて212名受診。

次年度受診者49名 男20名 女29名

要医療 10度以上3名 男2名 女1名

問題点

一次の視診で養護教諭、担任がチェックし校医の先生に詳しく診てもらうが、適確に出来ているか不安である。自身がない、見落とし、学校差があるという点で悩んでいる。二次、三次は業者でやっているが、視診の段階でより精度を高める方法を考えなければと思っている。視診についての実際的な研修をし、いろいろな測定器具等についても実習したい。

瑞穂町

検診方法は校医による視診。

視診の仕方が各校によってちがう。

全屈姿勢をとらせている所 4校

立位姿勢をとらせている所 2校

データについて

小学校 昨年度より増えているのは内科検診時に立位姿勢をとらせ、更に学校単独の検査、姿勢測定器を使って選別された結果の異常者の数が男子14人女子13人となった。脊柱側彎症とは言いがたい数である。

中学校 内科検診時に発見された異常者の数をそのまま調査に出したところもあるので、脊柱側彎症の数とは言いがたい。

内科検診時に7名異常者が出たが、そのうち1名コルセット使用し、医師の治療を受けている。

保護者が発見し、コルセット使用治療している女子生徒がいる。

学校でのX線検診で発見され、医師の診察を受けている。

脊柱側彎症と診断されている人は女子3名

治療勧告の用紙を検討中であり、治療結果が学校にもどってくる形式にしたい。

二次、三次検診の公費負担について今後検討して行く。

五日市町

小学校4校、中学校2校 計6校 検査方法は千葉大方式 学校で計測時に視診でチェックし、内科検診で校医視診。全員対象ではない中学生は1年生全員、2年、3年生は次年度再検査者。それに内科検査時にチェックされた人を

対象にやっている。小学校は1年生全員、2年生以上は中学校と同じやり方。表にある中学2年生女子1名について、昨年までは異常なしだったが、今年急に30度で発見、要医療通院中。

次年度再検査者 小学校 男子3名 女子2名
中学校 男子2名 女子0名

中学校の方では内科検診時に主にチェックしているが、全校一斉の検診なので、脊柱側弯症の担当が毎年変わることになり、担当者が不慣れのため、正確さを欠くのではないか。内科検診では中学の女子は上着を脱がないので難しい。検査方法で一番良い方法があれば知りたい。

日の出町

小学校2校、中学校2校、内科検診時に校医視診。小中学校1校は係の担任、養護教諭がチェックし、検診時に診る。

表について 男子0名 女子2名 計2名に訂正。

中学1年女子2名について 突発性側弯症と診断され6ヶ月定期検診している人と。もう一人は軽度の脊柱側弯症で、月一度通院している人である。

町内の養護部会より千葉大方式にしてほしいとの声がある。

奥多摩町

校医による視診 校医視診の結果、疑わしい者を専門医にまわす。その結果がわからない所があり、15度以上の人数はわからない。

脊柱側弯症は突発に出ることが多いので、年一回位の検診でいいのだろうか。発見確率の問題もあるが、どんな検査方法が良いのか。全員やる必要もどんなものか。個人として疑問を持っている。

檜原村

別紙参考 検査方法は千葉大方式

総括

東 先生

一次検診に問題があるようだ。学校医の手引きによると、視診と器具を持ちいるとの方法がある。最初は手探りでやってきた。一生懸命やってきたところ

からみつけれられるようになった 都の方針にのっとって実施している。全体の3%は疑わしいが、そのうちの3%がひっかかる。疑わしい者が発見できるのは我々のところである。疑わしかったら専門医による検査を受けるとすれば問題はない。発見率が少ないのに時間がかかる。自分の子供が偶然そうになったらショックだと思う。30度以内ならなんとか救え、幸せのためにどうしてもやらなければならない。少なくともやる義務があり、熱意を持ってやっていけばできる。データのとりかたには、問題があるので今後一生懸命やて行く。低学年は機能的な側腎症、高学年は要注意。だんだんと難しいものではなくなってきた。

質 問

奥多摩町

検査をあらためてやる必要がないのではなく、体重測定をしているので、その時、診ている。絶対やらなければいけないとか、方法論だと思う。予算があればやる方が良い。

秋川市校長

子供たちの勉強の姿勢、側腎症になりやすい子、突発的になる子、私たちにできるところの配慮を教えてほしい。

東 会長

子供は姿勢の悪いのが当然あり、自由にさせたい。突発性は原因不明である。思春期をすぎると止まる。ホルモンの関係か。早期発見である。30度以内に発見すると100%ふせげる。手術と進行を防ぐには、なんとしても早期発見である。低学年はあまり丁寧に診なくてもよいが、高学年女子、中学校はとくに注意。

西村 会長

校医の専門制とは、行政、校医、校長先生方としてはどのように考えているのか。検診のシステムを変えるのか。科学的な検診の要望が多いが、ご意見を伺いたい。

司 会

西村会長先生のご意見は、時間の関係で今後検討して行くという事で、次回へまわさせていただきます。

(4) 来年度研究主題について
次回幹事にまかせる。

(5) 来年度当番ブロック幹事代表挨拶
秋川市

(6) 閉 会

文責 福生市 羽村町 瑞穂町 幹事

西多摩学校保健連絡協議会資料

昭和61年度脊柱側弯症の実態調査

患児童生徒数(COBB 法15以上)

		小学校		中学校		検査方法
		受診者数	15以上(新)	受診者数	15以上(新)	
青梅市	男	5338	37(18) [△]	3239	2(1) [△]	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	5224	34(14)	2998	3(2)	
	計	10562	71(32)	6237	5(3)	
福生市	男	2308	0(0)	1207	1(1)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	2222	3(2)	1170	9(3)	
	計	4530	3(2)	2377	10(4)	
秋川市	男	2299	10(9)	1461	2(1)	千葉大方式
	女	2122	11(9)	1322	1(0)	
	計	4421	21(18)	2783	3(1)	
羽村町	男	2437	7(7)	1343	1(1)	千葉大方式
	女	2189	12(9)	1296	8(6)	
	計	4626	19(16)	2639	9(7)	
瑞穂町	男	1461	0(0)	889	0(0)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	1413	0(0)	866	0(0)	
	計	2874	0(0)	1755	0(0)	
五日市町	男	962	1(0)	573	0(0)	千葉大方式
	女	914	0(0)	550	2(1)	
	計	1876	1(0)	1123	2(1)	
日の出町	男	990	0(0)	508	0(0)	校医視診 疑わしい者を専門医へ 中学校1校千葉大方式
	女	849	1(0)	470	1(0)	
	計	1839	1(0)	978	1(0)	
奥多摩町	男	360	0(0)	216	0(0)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	337	0(0)	184	0(0)	
	計	697	0(0)	400	0(0)	
檜原村	男	124	0(0)	93	0(0)	千葉大方式
	女	130	1(1)	74	1(1)	
	計	254	1(1)	167	1(1)	

参考 受診者数は5月1日在籍数

学校医部会調べ

西多摩学校保健連絡協議会資料

昭和62年度脊柱側弯症の実態調査

患児童生徒数(COBB 法15以上)

		小 学 校		中 学 校		検 査 方 法
		受診者数	15以上(新)	受診者数	15以上(新)	
青梅市	男	510	2(0)	322	1(1)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	500	2(0)	307	8(4)	
	計	1010	4(0)	630	9(5)	
福生市	男	219	0(0)	126	9(9)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	216	2(0)	115	16(11)	
	計	436	2(0)	241	25(20)	
秋川市	男	215	0(0)	144	2(0)	千葉大方式
	女	202	3(1)	131	5(1)	
	計	417	3(1)	276	7(1)	
羽村町	男	230	0(0)	137	0(0)	千葉大方式
	女	202	0(0)	130	2(2)	
	計	433	0(0)	267	2(2)	
瑞穂町	男	143	14(14)	85	6(6)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	139	13(13)	83	3(3)	
	計	282	27(27)	168	9(9)	
五日市町	男	92	1(0)	56	0(0)	千葉大方式
	女	87	0(0)	53	1(1)	
	計	180	1(0)	110	1(1)	
日の出町	男	91	0(0)	53	10(7)	校医視診 疑わしい者を専門医へ 中学校1校千葉大方式
	女	79	1(0)	47	17(17)	
	計	171	1(0)	101	27(24)	
奥多摩町	男	33	0(0)	21	1(1)	校医視診 疑わしい者を専門医へ
	女	31	1(1)	20	3(3)	
	計	65	1(1)	41	4(4)	
檜原村	男	10	2(0)	9	0(0)	千葉大方式
	女	11	5(1)	6	0(0)	
	計	22	7(1)	15	0(0)	

参考 受診者数は5月1日在籍数